

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月 ~5日	12月 ~12日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	25 (26)	20
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	12	9
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	1	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	1	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	6	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	0	3
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
* その他の3件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第49週(12月6日~12月12日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	5	結核	5			2	1			2
三類	6	腸管出血性大腸菌感染症	6							6
四類	3	つつが虫病	2				1	1		
		レジオネラ症	1							1
五類	9	ウイルス性肝炎	1							1
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3		1		1			1
		侵襲性肺炎球菌感染症	1					1		
		水痘(入院例に限る)	1					1		
		播種性クリプトコックス症	1			1				
		梅毒	2					1	1	
新型インフルエンザ 等感染症	0	新型コロナウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

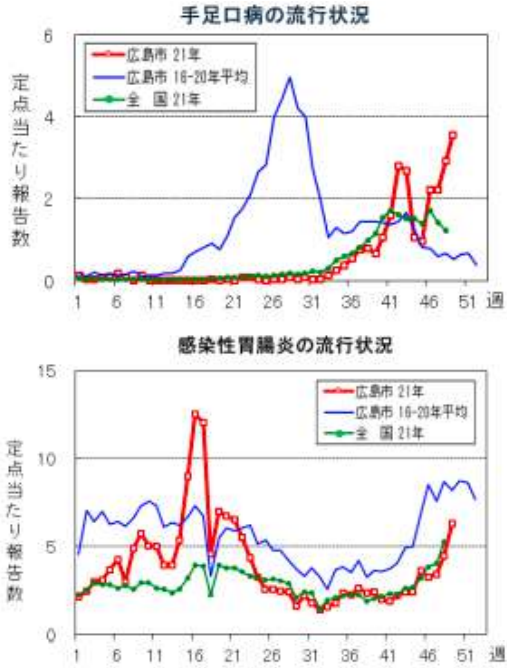
第49週は新規感染者の報告はありませんでした。年末に向けて気温が低下し、屋内での活動が増えるとともに、お正月休みや帰省等で人の動きが活発になることが予想されます。ワクチン接種者も含めて、マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気など基本的な感染防止対策を継続することが大切です。

2 手足口病

例年夏季に流行する感染症ですが、定点当たり3.54人と増加が続いています。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

3 感染性胃腸炎

定点当たり6.29人と、前週と比べて増加しました。冬季は感染性胃腸炎が増加するため、保育園や幼稚園、福祉施設などの集団生活の場では特に注意が必要です。手洗いの励行、便・吐物の適切な処理、次亜塩素酸ナトリウムを用いた消毒など感染予防対策を徹底しましょう。



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
フィロ	インフルエンザ	-	-	4.39		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.10	
小児科	咽頭結膜熱	9	0.38	0.33		眼科	RSウイルス感染症	2	0.08	0.42	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	0.38	2.34			急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	151	6.29	8.19		基幹	流行性角結膜炎	4	0.50	0.53	
	水痘	2	0.08	0.38			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	85	3.54	0.51			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.19			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.20	
	突発性発しん	12	0.50	0.26			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	13	0.54	0.29			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03	

急増減 ↑ (赤) 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ (黄) 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↘ (白) 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇄ (白) ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	つつが虫病	1	6	40歳代・市外
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	7	80歳代
5	水痘(入院例に限る)	1	1	20歳代
5	梅毒	1	97	30歳代

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(38.8℃) 鼻炎	0	2021/11/07	咽頭拭い液	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載